

認知症の中核症状とBPSD

中核症状（記憶障害、認知障害、人格変化）

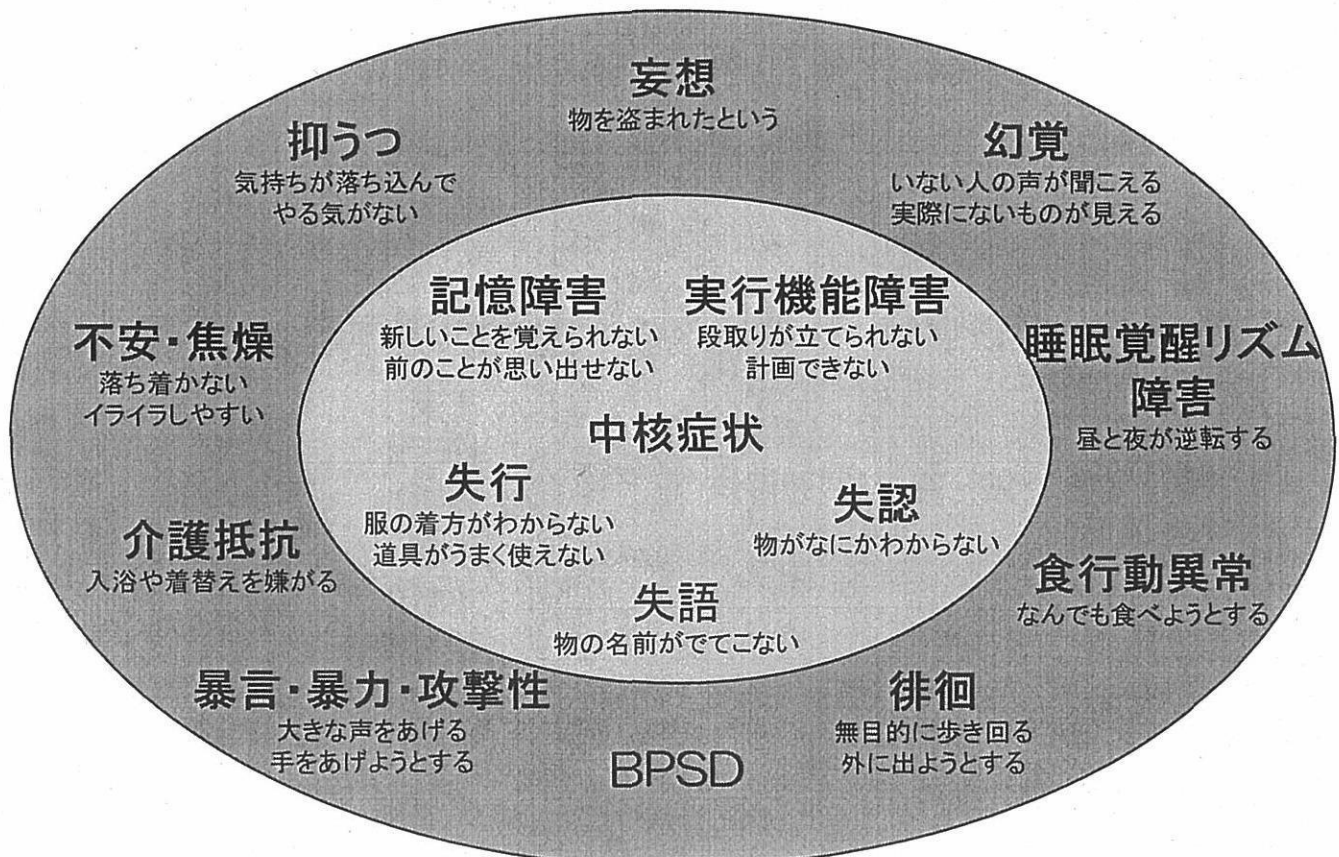
- 程度の差はあれすべての患者にみられる
- 疾患の進行とともに悪化する
- 神経細胞の脱落にともなう能力の喪失

BPSD（精神症状、行動障害）

- みられない患者もいる
- 疾患の重症度（進行）と比例しない
- 中核症状を持つ患者の周囲の環境に対する反応

JAAD

中核症状とBPSD



認知症のBPSD

治療面からの分類

- ・ 純粋な心因反応としてのBPSD
- ・ もともとの精神疾患（妄想性障害、アルコール関連障害、人格障害等々）との関連が認められるBPSD
- ・ 内服している薬物に誘発されたBPSD
- ・ せん妄状態

純粋な心因反応としてのBPSD

- ・ 認知機能障害がある方が、周囲の環境に反応して出現してくる症状
 - 治療の基本は環境の調整や非薬物療法
 - ケアマネの関与や介護保険サービスの利用で多くは改善
 - 精神科医療の出番は少ない

もともとの精神疾患（妄想性障害、
アルコール関連障害、人格障害等々）
との関連が認められるBPSD

内服している薬物に誘発されたBPSD

せん妄状態

→評価、診断、治療的介入のために
精神科医療が必要

福祉関係者に多い精神科医療拒否

いきなり強力な副作用がある薬を大量
に出してしまうなどの精神科医療サイ
ドの不手際に加えて、環境調整で改善
可能な「純粹な心因反応としての
BPSD」と精神科医療の関与が不可欠
なBPSDを区別せずに議論していたか
らではないか